

市民による親子の居場所づくり

「小樽わくわく共育ネットワーク」

小樽市 後志管内

【関係する団体】

小樽わくわく共育ネットワーク



わくわくフェスティバルの一コマ

1 活動の概要

- 日時
平成28年4月～平成29年3月 延べ120事業
平成29年度は約100事業程度実施予定
- 場所
小樽市生涯学習プラザ「レピオ」
小樽市富岡1丁目5番1号
- 参加者
延べ1,902名の保護者と子どもたちの参加
- ねらい
小樽のすべての子どもたちが、健康でイキイキと自分らしく学びながら、親子で家族の絆を深めながら共に成長する。
- 活動の形態
年間を通して、自然に親しむことや工作等の活動をする親子体験事業、母親を対象に家庭教育やストレスケア等の講座を実施し、保護者同士の学び合いの場として、家庭教育ナビゲーターによる家庭教育「学びカフェ」の時間を設定した。

2 実施上の工夫

- 会場を市内中心部にある稲穂小学校内に併設している生涯学習プラザとすることで、どの地域からも参加しやすいようにした。
- 土曜日や長期休業日に親子体験事業を開催することにより、学校における休業日の子どもの居場所となるようにした。
- 講座の講師は家庭教育ナビゲーターの養成を修了した地域住民が家庭教育についての話題提供を行い、参加した保護者同士の交流へとつなげることができるよう配慮した。



親子体験講座小樽の春マップづくり

3 活動の成果

- 家庭教育ナビゲーターである講師が講座を実施する中で相談活動を行うことにより、参加者が関心を持ち、新規で家庭教育ナビゲーター養成講習を受講するきっかけとなった。
- 年間を通じた活動を実施することにより、家庭教育の情報交流が盛んに行われた結果、参加者の悩みを反映して、家庭教育ナビゲーターが中心となり、不登校に関する子育て相談及び居場所づくりの機会を作り出すことができた。

4 活動の課題

- 多くの子育て世代保護者がつながることができるように、講座内容・実施回数等の見直し、すべての家庭・子どもが対象となる講座を開催できるよう努める。
- より幅広い保護者や子どもに参加してもらえるよう、周知の方法を工夫する必要がある。学校や地域と連携を深め、多くの場面で交流することができ、講座の紹介などが緊密に行える関係の構築に努める。